

令和3年度森林環境譲与税使途実績一覧

(単位：千円)

事業名	事業内容	事業総額	森林環境譲与税充当額	その他財源
森林経営管理事業	市内森林整備状況の把握や、意向調査地選定のための森林経営管理制度支援システムデータ更新業務委託等。	5,114	5,114	0
森の未来づくり事業	山に伐り置きされている間伐材を山主や地域の方が山から運び出して有効利用する「木の駅プロジェクト」の運営費補助を始め、搬出間伐の運搬費用の補助などの支援策の実施のほか、地域材の利用のPR活動を実施。	1,211	1,123	88
雁峰山整備事業	未整備森林を林小班単位で団地化し、森林整備を進めるための測量業務。	8,543	8,543	0
湯谷温泉配湯事業	湯谷温泉薪ボイラー施設で利用する、地域材による薪生産及び薪ボイラー運営業務。	61,022	19,204	41,818
森づくり基金積立事業	令和5年度以降市主体の森林整備に関わる事業を実施するための基金積立金。	65,186	65,186	0

* 令和3年度森林環境譲与額：99,170千円

- ▶ 新城市では、市内全域の林業に適した森林を優先的に選び、森林経営管理制度に基づき森林整備を進める方針。
- ▶ 令和2年度に導入をした森林経営管理制度支援システムを活用し、令和3年度においては、以下の取組を実施。
 - 意向調査385haを実施した。
 - 地元説明会を3回開催した。
- ▶ 令和4年度においては、更に、500ha程度の意向調査を進めると共に、令和3年度の意向調査の結果から、経営管理権集積計画を順次作成していく。

□ 事業内容

1 意向調査

- 森林経営管理制度支援システムを活用し、林業に適した森林4団地を選定した。新城林務課、新城森林組合、林業事業体を交えた適地選定会を実施し、3団地を選定した。
- 各団地毎、事業説明会を開催し意向調査を実施した。

【事業費】 208千円（うち譲与税208千円）

【実績】 意向調査面積 385ha
事業説明会 3回実施



（事業1：説明会の様子）

□ 事業スキーム

1 意向調査



□ 工夫・留意した点

- 森林経営管理制度支援システムを活用し、施業履歴を始めとした市内の森林の情報をシステムに入力し、見える化することで森林経営に適した森林をデータに基づいて抽出し候補地とした。
- 愛知県、森林組合、林業事業体、市による適地選定会を実施し、多方面からの意見を交換することで、候補地についてさらに精査する機会を設けた。
- 説明会の開催は、市外からの参加者のことも考え、土曜日の午後に開催をした。また、雪の多い地区での開催であったため、12月までに説明会を開催した。

◇ 基礎データ

①令和3年度譲与額	99,170千円
②私有林人工林面積（※1）	26,214ha
③林野率（※2）	82.8%
④人口（※3）	44,355人
⑤林業就業者数（※4）	155人

※1、2：「2020農林業センサス」より、※3：「R2国勢調査」より、
※4：「H27年国勢調査」より

- ▶ 新城市では、古くから割り山として利用されていたような、筆が細かく、森林所有者が多数存在し、森林整備が進んでいない山林を、100ha程度を1団地とし、林小班を単位として境界を決め間伐を進めていく方針。
- ▶ 令和3年度においては、以下の取組を実施。
 - 74ha（1林班）の所有者を調査し、事業説明会を2回開催した。
 - 令和4年度からの林小班界測量に備え、2級基準点を3箇所設置した。
- ▶ 令和4年度においては、74haの小林班界を所有者立会いのもと確定をすると共に、山林所有者から間伐の意向を確認する。

□ 事業内容

1 雁峰山整備事業測量業務委託

- 山林所有者を調査し、事業説明会を開催。
- 翌年度からの林小班界測量に備え、現地調査、基準点を設置した。

【事業費】 8,543千円（うち譲与税8,543千円）

【実績】 所有者調査面積 74ha
 事業説明会 2回実施
 2級基準点設置 3箇所



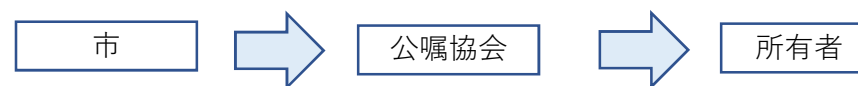
（事業1：説明会の様子）



（事業1：事業予定地）

□ 事業スキーム

1 雁峰山整備事業測量業務委託



□ 工夫・留意した点

- 本事業地はこれまで境界を明確化することが困難なため、森林整備が遅れており、土砂崩れ災害も頻繁に発生をしている。林小班界で団地化することにより、個々の境界は明確化できないが、間伐の同意を取ることにより、まとまりのある施業地となる。間伐の同意をいただけない山林は除地扱いし、所有者と共に、現地にマーキングをし、誤伐を防ぐ。
- 2級基準点を基に測量をすることにより、今後の地籍調査等の際に境界杭の復旧が容易になる。

◇ 基礎データ

①令和3年度譲与額	99,170千円
②私有林人工林面積（※1）	26,214ha
③林野率（※2）	82.8%
④人口（※3）	44,355人
⑤林業就業者数（※4）	155人

※1、2：「2020農林業センサス」より、※3：「R2国勢調査」より、
 ※4：「H27年国勢調査」より

- ▶ 新城市では、令和元年度より稼働を始めた湯谷温泉木質バイオマスボイラーの燃料として、市内の山に伐り置かれた間伐材から薪を生産しており、薪を安定的に生産することで、ボイラーの常時稼働が可能になると共に、間伐材を利用することによる森林整備の促進を図っていく方針。
- ▶ 令和3年度においては、以下の取組を実施。
 - ・ 薪を839m³生産した。
 - ・ 木質バイオマスボイラーを259日稼働した。
- ▶ 令和4年度も引き続き、木質バイオマスボイラーを稼働し、湯谷温泉へ安定した温泉供給を行っていく。

□ 事業内容

1 湯谷温泉配湯事業

- ・ 市で管理する湯谷温泉の源泉施設（配湯所、配管設備）を適切に管理し、温泉を安定的に供給することで湯谷温泉の魅力向上を図る。また、山に伐り置かれた間伐材を木質バイオマスボイラーに燃料として利用することで、地域材の利用促進、地域の森林整備につなげる。

【事業費】 61,022千円（うち譲与税19,204千円）

【実績】 薪生産量 839m³

木質バイオマスボイラー稼働日数 259日



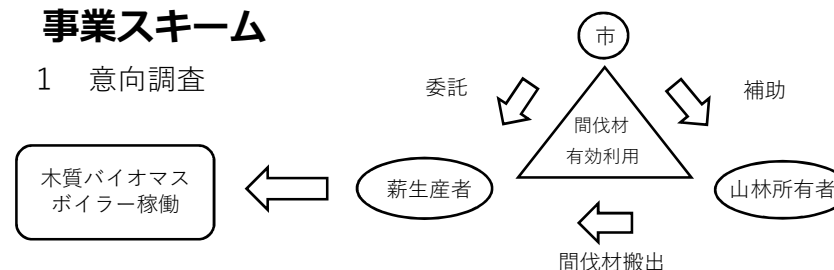
（事業1：木質バイオマスボイラー）



（事業1：薪生産）

□ 事業スキーム

1 意向調査



□ 工夫・留意した点

- ・ 山に伐捨てられた間伐材を有効利用するために、新城市薪生産協議会を設立し、安定した薪の供給体制を整えた。
- ・ 薪燃焼時の熱効率や煙の発生を抑えるために、含水率を管理し薪を投入している。

◇ 基礎データ

①令和3年度譲与額	99,170千円
②私有林人工林面積（※1）	26,214ha
③林野率（※2）	82.8%
④人口（※3）	44,355人
⑤林業就業者数（※4）	155人

※1、2：「2020農林業センサス」より、※3：「R2国勢調査」より、
 ※4：「H27年国勢調査」より